Jump-up しずおか

プロパンガス料金案内 ガス屋の窓口

プロパンガス料金の見直し 豊富な実績でサポート

プロパンガス料金の見直しを提案する「ガス屋の窓口」。2014（平成26）年の設立以来、全国で約10万件（グループ全体）の変更実績を持ち、浜松市中区の中部支社で県内をカバーしている。プロパンガス業界の現状や同社の強みを、運営するエネジスタ（東京都）に聞いた。

<企画・制作／静岡新聞社地域ビジネス推進局>

契約ごとに異なる料金 認知度低い「自由化」

プロパンガスの料金は、電気や水道など国や自治体が認可、決定する「公共料金」とは異なり、各事業者が自由に設定できる「自由料金」。同社営業統括本部開発課の鈴木和多留さんによれば「同じガス会社を利用していても契約ごとに料金は異なります。隣同士で使用量が同じでも、料金が同じとは限りません」という。

プロパンガスは電気や都市ガスに先立つ1997（平成9）年に自由化され、消費者がより自由に会社を選べるようになった。「関東では

ガス会社を3、4回変えるケースも珍しくなくなりましたが、地方では自由化の認知度がまだまだ低く、自分の料金が平均と比べて高いのか安いのかを知らない人も多くいます」と鈴木さん。

自由化以前は積極的に営業する必要性が薄く、自由化後も長年その傾向が続いていたが、近年は顧客獲得に力を入れる事業者が増えてきたという。人口減少やオール電化の普及により市場が右肩下がりとなる中、ガス料金を抑えたい消費者のみならず、営業ノウハウを求める事業者の間でも、両者を結ぶ同社の存在感が高まってきた。現在、全国100社超の事業者と提携しプロパンガス業者の変更を無料でサポートしている。「多くの実績を背景に、事業者から好条件を引き出せることが当社の強みです。提携社数の多さも、当社が頼りにされている結果だと思います」と胸を張る。

「人」を大切に 暮らしの一助を

株式会社エネジスタ 代表取締役 戸塚 大輔 社長

「ガス屋の窓口」は、皆さまのプロパンガス料金の削減をお手伝いする会社として誕生しました。以来、暮らしを取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。その中で、常に新たな価値を生み出し続けることが重要だと考えています。

今の時代だからこそ必要とされる「人と人とのつながり」を大切にすることが、エネルギー業界に関わる企業としての、絶対的な使命ととらえています。弊社は決してデジタルのみに頼らずに、アナログ（マンパワー）を生かす、新時代のハイブリッド型の営業体制を整えてきました。おかげさまで、弊社の理念に共感していただいた全国のプロパンガス事業者さまから業務提携のご依頼をいただき、多くのお客さまをご紹介させていただきました。

私どもが事業者さまの市場競争を下支えすることは、結果として消費者さま本位のガス料金を実現する近道だと考えています。エネルギー業界のイノベーションを加速化させ、皆さまの暮らしの一助となるよう一層の努力を重ねて参ります。

事業者選びから契約後まで マンパワーで手厚くケア

ガス会社を自由に選べるようになったといっても、消費者が自分に合った業者を見つけるのは簡単ではない、と鈴木さんはいう。「そもそも標準料金しか表に出していない業者が多く、消費者が料金を比較するのは簡単ではありません。法律で設置場所から一定の距離に拠点があることが義務付けられているなど、どこでも契約できるわけでもありません」。

▲営業統括本部開発課の鈴木和多留さん

そこで強みになるのが、ガス業界を熟知した同社の訪問説明員だという。県外から営業する同業社も増える中、浜松市に拠点を持ち、地元の市況に精通しているのが同社の武器だ。「提携する事業者の中から、お客さまに合ったところを当社で選びます。契約、解約も当社側で手配するため、お客さまの作業は必要ありません」。提携する事業者には一定の基準を設け、中堅以上の企業に限っている。「事業者は法律にのっとって営業しているため、業者により安全性が異なるということは基本的になく、同じサービスを受けることができますので安心してください」と語る。ガス会社を切り替えても、今ある配管や給湯器などはそのまま使うことができるという。

契約時の料金とともに重要なポイントは、契約後の値上げ。契約から5年10年たつと、当初の料金より大幅に高額になっているケースもあるという。「値下げが少ないため、長期契約者ほど料金が高くなる傾向にあります」と鈴木さんは指摘する。同社で変更した人へのアフターサポートとして、1年目は予期せぬ値上げがあった際の差額を補償し、2年目以降も原油価格の高騰やインフレなどによる業界全体の値上げ以外のケースや、値上げ幅が業界の平均を上回る場合は、提携先に対して是正を求める。ガス器具の購入や無料見積もりにも対応する。

まずは検針票をチェック 同社サイトで試算も

プロパンガス料金を見直す第一歩は、検針票を確認することだという。「以前のものと比べて、基本料金や従量単価が大きく変わっていないかチェックしてみてください。以前の検針票がなくても、当社にお電話いただければ、記載された料金が、地域の平均と比べて高いかどうかを確認できます」。

一般財団法人日本エネルギー経済研究所に置かれた「石油情報センター」のウェブサイトでは、地域別のプロパンガス料金の平均値を見ることができる。また「ガス屋の窓口」のウェブサイトにも、料金のシミュレーションができるページを用意。サイトには、都道府県別の平均価格や同社が考える「適正価格」、変更の事例集などを掲載している。「平均よりも高い料金を長年払い続け、大きな損をしている可能性もあります。プロパンガスはどの事業者のものでも中身は同じです。同じ商品を買うなら、安いほうがベターのはず。まずは一度、電話やウェブで料金をチェックしてみてください」。

「新型コロナ対策実施中」

同社では新型コロナウイルス対策にも力を入れる。毎朝社内で検温を実施し、マスク着用、アルコールも常時携帯するほか、会食や懇親会、大都市圏への出張や旅行を禁止しているという。また、対面に抵抗がある人向けに、ウェブや電話での相談も受け付けている。

えっ！こんなに差が出るの?!

鈴木さんは 330円/㎥

望月さんは 465円/㎥

山本さんは 570円/㎥

渡辺さんは 625円/㎥

あなたのプロパンガスの単価は ○○○ 円/㎥？

※ご利用中のガス会社から届く「検針票・請求書」に記載されている従量単価をご比較ください

詳しいサービス紹介動画はこちらから

ガス屋の窓口

プロパンガス料金案内
ガス屋の窓口
（株）エネジスタ 浜松市中区鍛冶町140 9
お問い合わせ・ご相談 受付/10:00～20:00
0120-800-905